

## 基本計画書

基本計画		
事項	記入欄	備考
計画の区分	学部の学科設置	
フリガナ設置者	がっくわいぶん かがけん 学校法人 加計学園	
フリガナ大学の名称	くらしきぎぶつがくがいがく 倉敷芸術科学大学 (Kurashiki University of Science and the Arts)	
大学本部の位置	岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地	
大学の目的	<p>本学は、教育基本法及び学校教育法の本旨に則り、芸術、産業科学技術、生命科学に関する学芸を深く教授研究し、人格を陶冶することを目的とする。</p>	
新設学部等の目的	<p>●美術工芸学科 近代における「美術」と「工芸」は、それぞれが独自の制作理論と手法の展開により発展してきた。しかし、21世紀の今日、我々が展覧会等で出会う作品の中には「美術」あるいは「工芸」という既存の枠を超えた新しい表現様式が数多く見受けられる。 こうした美術界の動向を見据え、本学では開学以来それぞれ独立して研究・教育を行ってきた「美術学科」「工芸・デザイン学科」の2学科を「美術工芸学科」に統合することにした。そしてこれに伴い、両分野を領域横断的に学習できるカリキュラムを配置する。このことによって、時代をリードする新しい創作理論と表現手法を展開できる美術工芸作家の養成が可能になる。 さらに同学科に「芸術文化企画コース」を新設することとした。ここでは美術史や美学・芸術学などの理論を基礎に、グローバルな視点から芸術と文化の相互的な関係についての理解を深めるとともに情報分析力や論理的な考察力を養うことを目的としている。その結果として同コースで育成を目指すのは、芸術・文化事業や生涯教育の現場などで活躍できる実務能力を伴った人材である。 このように2学科を統合し、さらに新しいコースを設けることによって、本学が従来目指してきた「作家の育成」という枠組みを超えた新しいタイプの人材の育成が可能となると考えている。</p> <p>●デザイン学科 倉敷芸術科学大学芸術学部では、デザイン領域の研究・教育としてはこれまで、工芸・デザイン学科におけるプロダクトデザイン及び染織工芸と、映像・デザイン学科におけるグラフィックデザインなどが行なわれてきた。 今日の社会が生産型から創造型に転換が進む中、デザインには社会先導としてのビジョン創出や人、モノ、空間、システム、情報などとの関わりを通じた包括的な経験価値の創出という役割が求められており、デザインの諸領域を融合した総合的な研究・教育が必要となっている。 そこで、従来の細分化されたデザイン領域にとらわれず平面、立体、空間、情報といった幅広い領域における総合的なデザインの研究・教育を効果的に行なうことを目的としたデザイン学科を、工芸・デザイン学科を母体として新たに設置する。これにより、時代の求める価値を総合的なデザインアプローチによって創出し、さらにそれを社会に繋げ、より具体的な貢献のできる研究・教育を行なう体制とする。また、岡山県、さらに中四国地域の産業界の多様なニーズに対し、総合的なデザインソリューションで応え先導することで貢献する。</p> <p>●観光学科 倉敷芸術科学大学の立地する倉敷は、倉敷川畔が重要伝統的建造物群保存地区に指定され、倉敷市も観光ルネサンス補助対象地域に選定されている。さらに、瀬戸内海国立公園の一部として鷺羽山・瀬戸大橋や、全国的な知名度をもった県北を中心とした温泉など、貴重な観光資源を多数有する都市である。 日本においては、国内・海外旅行者数とも年々増加傾向にあり、付加価値の高い旅行商品の企画・開発が求められている。さらに政府は、日本を訪れる外国人観光客の倍増計画を打ち出すとともに、「観光白書(平成18年度版)」で、観光ルネサンス事業において、地域再生の観点からも観光地の活性化が重要であることを指摘している。また、「国際観光立国に関する提言」(日本経済団体連合会)には、「地域発の魅力開発(都市生活、食文化等)に向けた総合的プロデューサーの育成の推進」「多言語による情報提供の推進」「世界に向けた情報発信推進」等が盛り込まれている。遡れば、旧運輸省(現国土交通省)観光政策審議会の「今後の観光政策の基本的な方向について」(平成7年6月)において、観光に関する高等教育研究機関の必要性が示されて以来、国私立を問わず観光関連の学部が設置されてきた。 今回は、このような背景や立地条件を最大限に生かすことに着目した結果、起業学科で養成を目指している人材のうち、「観光」分野に特化した人材の育成を図るために、産業科学技術学部で観光学科の設置を計画した。設置にあたっては、起業学科およびコンピュータ情報学科の教員と検討を重ね、単なる旅行コーディネータではなく、ビジネスに関する知識や情報に関する知識を有する観光産業を担う人材の育成を目指している。さらに、地域振興に寄与し「まちおこし」に関わることのできるリーダー的人材や、観光メディアに携わる人材の育成等も目指すこととしている。</p>	

新設学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学定員 年次人	収容定員 人	学位又は称号	開設時期及び開設年次 年 月 第 年次	所在地		
新設学部等の概要	芸術学部 [College of Arts] 美術工芸学科 [Department of Fine & Applied Arts]	4	45	—	180	学士(芸術)	平成20年4月 第1年次	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
	芸術学部 [College of Arts] デザイン学科 [Department of Design]	4	35	—	140	学士(芸術)	平成20年4月 第1年次		
	産業科学技術学部 [College of Science & Industrial Technology] 観光学科 [Department of Tourism Creation]	4	40	—	160	学士(産業 科学技術)	平成20年4月 第1年次		
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>●倉敷芸術科学大学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年4月より学生募集を停止し在学生の卒業をもって廃止 芸術学部美術学科 (△40) 芸術学部工芸・デザイン学科 (△30)</li> <li>平成20年4月より名称および入学定員を次のとおり変更 芸術学部映像・デザイン学科→メディア映像学科 40→30(△10) 産業科学技術学部コンピュータ情報学科→IT科学科 50→40(△10) 産業科学技術学部起業学科→起業経営学科 30→30 生命科学部生命科学科 90→40(△50)</li> <li>平成20年設置に向け平成19年4月末 以下の書類を別途提出済 入学定員20人及び3年次編入学定員8人の増加に伴う学則変更認可申請書</li> <li>平成20年設置に向け平成19年5月末 以下の書類を別途提出予定 生命科学部生命医科学科 (40名) 設置届出書</li> </ul> <p>●岡山理科大学大学院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年設置に向け平成19年4月末 以下の書類を別途提出済 理学研究科臨床生命科学専攻 (12名) 設置届出書</li> <li>平成20年度より入学定員を次のとおり変更 理学研究科総合理学専攻 14→13 (△1) 生物化学専攻 16→14 (△2) 工学研究科応用化学専攻 15→13 (△2) 機械システム工学専攻 15→14 (△1) 電子工学専攻 15→13 (△2) 情報工学専攻 15→13 (△2) 総合情報研究科ソリューション科学専攻 6→4 (△2)</li> </ul> <p>●千葉科学大学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年4月より入学定員を次のとおり変更 薬学部薬科学科 50→40(△10) 危機管理学部防災システム学科 70→40(△30)</li> <li>平成20年設置に向け平成19年5月末 以下の書類を別途提出予定 薬学部動物生命科学科 (40名) 設置届出書</li> <li>平成20年千葉科学大学大学院設置に向け平成19年6月末 申請書を別途提出予定</li> </ul>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	芸術学部 美術工芸学科	73 科目	65 科目	46 科目	184 科目	124 単位			
	芸術学部 デザイン学科	69 科目	44 科目	27 科目	140 科目	124 単位			
産業科学技術学部 観光学科	89 科目	37 科目	4 科目	130 科目	124 単位				

教員	学部等の名称		専任教員等						兼任教員	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新設	芸術学部 美術工芸学科		11人 (11)	5人 (5)	2人 (2)	0人 (0)	18人 (18)	1人 (1)	63人 (59)	●美術工芸学科 ・美術学科から11名 ・工芸・デザイン学科から7名 移行 ●デザイン学科 ・工芸・デザイン学科から5名 ・映像・デザイン学科から1名 ・美術学科から2名 ・コンピュータ情報学科から1名 移行 ●観光学科 ・起業学科から4名 ・コンピュータ情報学科から1名 ・工芸・デザイン学科から1名 ・映像・デザイン学科から1名 ・生命科学科から2名 移行 ●メディア映像学科、 IT科学科、 起業経営学科 の3学科については 平成19年4月名称 変更済み
	芸術学部 デザイン学科		7人 (5)	2人 (2)	3人 (2)	0人 (0)	12人 (9)	0人 (0)	72人 (48)	
	産業科学技術学部 観光学科		5人 (5)	4人 (2)	1人 (1)	0人 (0)	10人 (8)	0人 (0)	53人 (43)	
組織	計		23人 (21)	11人 (9)	6人 (5)	0人 (0)	40人 (35)	1人 (1)	188人 (150)	
	既設		6人 (5)	2人 (3)	3人 (2)	0人 (0)	11人 (10)	0人 (0)	67人 (66)	
	計		6人 (5)	2人 (3)	3人 (2)	0人 (0)	11人 (10)	0人 (0)	67人 (66)	
概要	産業科学技術学部 IT科学科		14人 (14)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	16人 (16)	0人 (0)	44人 (44)	
	産業科学技術学部 起業経営学科		7人 (7)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	9人 (9)	0人 (0)	37人 (37)	
	計		21人 (21)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	25人 (25)	0人 (0)	81人 (81)	
分	生命科学部 生命科学科		7人 (7)	5人 (6)	1人 (1)	2人 (2)	15人 (16)	2人 (2)	67人 (66)	
	生命科学部 健康科学科		8人 (8)	1人 (1)	6人 (6)	2人 (2)	17人 (17)	0人 (0)	49人 (49)	
	生命科学部 生命動物科学科		9人 (9)	1人 (0)	1人 (1)	3人 (3)	14人 (13)	0人 (0)	43人 (43)	
計		24人 (24)	7人 (7)	8人 (8)	7人 (7)	46人 (46)	2人 (2)	159人 (158)		
合計			74人 (71)	24人 (23)	17人 (15)	7人 (7)	122人 (116)	3人 (3)	495人 (455)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		大学全体	
	事務職員		58人 (58)		3人 (3)		61人 (61)			
	技術職員		3人 (3)		0人 (0)		3人 (3)			
	図書館専門職員		0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)			
	その他の職員		0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)			
計			61人 (61)		3人 (3)		64人 (64)			
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計		大学全体		
	校舎敷地	133,028.98 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		133,028.98 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	14,384.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		14,384.00 m <sup>2</sup>				
	小計	147,412.98 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		147,412.98 m <sup>2</sup>				
	その他	28,483.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		28,483.00 m <sup>2</sup>				
合計		175,895.98 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		175,895.98 m <sup>2</sup>				
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計		大学全体			
	31,184.31 m <sup>2</sup> ( 31,184.31 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		31,184.31 m <sup>2</sup> ( 31,184.31 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	室	室	室	室 (補助職員 人)	室 (補助職員 人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数		室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
		( )	( )	( )	( )	( )	( )			
	計	( )	( )	( )	( )	( )	( )			

図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
		m <sup>2</sup>							
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		m <sup>2</sup>							
経 費 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	備 考	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	教授 1,277千円 准教授・講師 1,140千円	教授 1,277千円 准教授・講師 1,140千円	図書購入費	(大学全体) 38,503千円	(大学全体) 34,653千円		(大学全体) 25,262千円
						設備購入費	(大学全体) 76,511千円		(大学全体) 55,776千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	芸術学部	1,820千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	—	—		
	産業科学技術学部								
	IT科学科	1,760千円	1,540千円	1,540千円	1,540千円	—	—		
	起業経営学科	1,490千円	1,470千円	1,490千円	1,490千円	—	—		
	観光学科	1,195千円	975千円	975千円	975千円	—	—		
	生命科学部								
生命科学科	1,760千円	1,540千円	1,540千円	1,540千円	—	—			
健康科学科	1,650千円	1,430千円	1,430千円	1,430千円	—	—			
生命動物科学科	1,535千円	1,530千円	1,530千円	1,530千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料、私立大学等経常費補助金 等							
大 学 の 名 称	倉敷芸術科学大学								
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
(芸術研究科)								倉敷市連島町西之浦2640番地	
美術専攻修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.75	平成11年度		
工芸専攻修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.35	平成11年度		
芸術研究科修士課程 計						0.55			
芸術制作表現専攻博士(後期)課程	3	4	—	12	博士(芸術)	0.41	平成13年度		
芸術研究科博士課程 計						0.41			
(産業科学技術研究科)									
計算機科学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(産業科学技術)	0.68	平成11年度		
機能物質化学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(産業科学技術)	0.68	平成11年度		
産業科学技術研究科修士課程 計						0.68			
計算機科学専攻博士(後期)課程	3	2	—	6	博士(工学)	0.00	平成13年度		
機能物質化学専攻博士(後期)課程	3	2	—	6	博士(工学)	1.33	平成13年度		
産業科学技術研究科修士課程 計						0.66			
(人間文化研究科)									
人間文化専攻修士課程	2	15	—	30	修士(学術)	0.23	平成11年度		
人間文化研究科 計						0.23			
大学院(通信制)									
(芸術研究科)									
美術専攻(通信制)修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.50	平成14年度		
芸術研究科 計						0.50			

平成16年度より芸術学部美術学科は専攻を廃止し、映像・デザイン学科を設置。工芸学科は、工芸・デザイン学科に名称変更。

生命科学部を設置し、国際教養学部を募集停止。国際教養学部教養学科定員90名は、40名を生命科学部健康科学科に、20名を芸術学部へ振替。国際教養学部起業学科の定員50名は、40名を産業科学技術学部起業学科へ、10名を芸術学部へ振替。

産業科学技術学部へ起業学科(通信教育課程)を設置し、国際教養学部起業学科(通信教育課程)を募集停止。

既設大学等の状況	(産業科学技術研究科) 機能物質化学専攻(通信制) 修士課程 産業科学技術研究科 計	2	20	—	40	修士(産業科学技術)	0.00 0.00	平成14年度		平成17年度より芸術学部工芸・デザイン学科より10名を生命科学部健康科学科へ振替。 産業科学技術学部起業学科(通信教育課程)を募集停止。	
	(人間文化研究科) 人間文化専攻(通信制) 修士課程 人間文化研究科 計	2	30	—	60	修士(学術)	0.13 0.13	平成14年度			
	(芸術学部) 美術学科 映像・デザイン学科 工芸・デザイン学科 芸術学部 計	4 4 4	40 40 30	— — —	160 160 90	学士(芸術) 学士(芸術) 学士(芸術)	1.08 1.24 0.91	平成7年度 平成14年度 平成7年度		平成18年度より産業科学技術学部コンピュータ情報学科より30名、生命科学科より10名を振替。生命科学部に生命動物科学科を設置し、健康科学科10名増。	
	(産業科学技術学部) コンピュータ情報学科 起業学科 産業科学技術学部 計	4 4	50 30	— —	200 120	学士(産業科学技術) 学士(産業科学技術)	0.88 0.98 0.91	平成7年度 平成16年度		平成19年度より芸術学部工芸・デザイン学科より10名、起業学科より10名を生命動物科学科に振替。	
	(生命科学部) 生命科学科 健康科学科 生命動物科学科 生命科学部 計	4 4 4	90 60 60	— — —	360 240 240	学士(生命科学) 学士(健康科学) 学士(生命動物科学)	1.19 1.36 1.34 1.27	平成16年度 平成16年度 平成18年度			
	学部(通信教育課程) (産業科学技術学部) コンピュータ情報学科 産業科学技術学部(通信制) 計	4	200	2年次 100 3年次 100	1300	学士(産業科学技術)	0.04 0.04	平成15年度			
	留学生別科	1	30	—	30		0.73	平成13年度			
	大 学 の 名 称 岡山理科大学										
	学 部 等 の 名 称										
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
		年	人	年次人	人		倍				
	既設大学等の状況	(理学研究科) 応用数学専攻修士課程 化学専攻修士課程 応用物理学専攻修士課程 総合理学専攻修士課程 生物化学専攻修士課程 理学研究科修士課程 計	2 2 2 2 2	7 16 14 14 16	— — — — —	14 32 28 28 32	修士(理学) 修士(理学) 修士(理学) 修士(理学) 修士(理学)	1.28 1.37 0.92 1.10 1.71 1.29	昭和55年度 昭和49年度 昭和49年度 昭和63年度 平成4年度	岡山県岡山市 理大町1番1号	・名称変更 平成17年度より工学研究科機械工学専攻→機械システム工学専攻  総合情報研究科 シミュレーション物理専攻 →シミュレーション科学専攻
		応用数学専攻 博士課程(後期) 材質理学専攻 博士課程(後期) 理学研究科博士課程 計	3 3	4 9	— —	12 27	博士(理学) 博士(理学)	0.25 0.40 0.35	昭和62年度 昭和53年度		
		(工学研究科) 応用化学専攻修士課程 機械システム工学専攻 修士課程	2 2	15 15	— —	30 30	修士(工学) 修士(工学)	0.86 0.76	平成2年度 平成2年度		

既設大学等の状況	電子工学専攻修士課程	2	15	—	30	修士（工学）	0.43	平成2年度			
	情報工学専攻修士課程	2	15	—	30	修士（工学）	0.66	平成8年度			
	福祉システム工学専攻修士課程	2	8	—	16	修士（工学）	0.81	平成17年度			
	工学研究科修士課程 計						0.69				
	システム科学専攻博士課程（後期）	3	5	—	15	博士（工学）	0.33	平成2年度			
	工学研究科博士課程 計						0.33				
	(総合情報研究科)										
	情報科学専攻修士課程	2	7	—	14	修士（総合情報）	1.71	平成13年度			
	シミュレーション科学専攻修士課程	2	6	—	12	修士（総合情報）	0.74	平成13年度			
	生物地球システム専攻修士課程	2	7	—	14	修士（総合情報）	1.28	平成13年度			
	社会情報専攻修士課程	2	7	—	14	修士（総合情報）	0.78	平成13年度			
	総合情報研究科修士課程 計						1.14				
	数理・環境システム専攻博士課程（後期）	3	2	—	6	博士（学術）	2.00	平成15年度			
	総合情報研究科博士課程 計						2.00				
	(理学部)										
	応用数学科	4	85	—	340	学士（理学）	1.25	昭和39年度			
	化学科	4	75	—	315	学士（理学）	0.94	昭和39年度			
	応用物理学科	4	—	—	—	学士（理学）	0.83	昭和41年度			
	物理学専攻	4	35	—	160	学士（理学）		平成14年度			
	医用科学専攻	4	40	—	140	学士（理学）	平成14年度				
	基礎理学科	4	80	—	315	学士（理学）	1.14	昭和50年度			
	生物化学科	4	90	—	360	学士（理学）	1.22	昭和63年度			
	臨床生命科学科	4	85	—	330	学士（理学）	1.25	平成16年度			
	理学部 計						1.11				
	(工学部)										
	バイオ・応用化学科	4	80	—	170	学士（工学）	0.78	昭和61年度			
	応用化学専攻	4	—	—	90	学士（工学）		昭和61年度			
	生物・環境化学専攻	4	—	—	90	学士（工学）		昭和61年度			
	機械システム工学科	4	85	—	355	学士（工学）	1.00	昭和61年度			
	電気電子システム学科	4	70	—	340	学士（工学）	0.82	昭和61年度			
	情報工学科	4	85	—	415	学士（工学）	1.06	平成4年度			
	福祉システム工学科	4	—	—	70	学士（工学）	0.91	平成13年度			
	知能機械工学科	4	70	—	210	学士（工学）	0.71	平成17年度			
	生体医工学科	4	60	—	60	学士（工学）	0.90	平成19年度			
	工学部 計						0.90				
	(総合情報学部)										
	情報科学科	4	80	—	350	学士（総合情報学）	0.94	平成9年度			
	コンピュータシミュレーション学科	4	—	—	120	学士（総合情報学）	0.70	平成9年度			
	生物地球システム学科	4	80	—	320	学士（総合情報学）	1.00	平成9年度			
	社会情報学科	4	70	—	70	学士（総合情報学）	0.99	平成9年度			
地域人間情報専攻	4	—	—	105	学士（総合情報学）	平成15年度					
情報社会システム専攻	4	—	—	105	学士（総合情報学）	平成15年度					
建築学科	4	80	10	80	学士（総合情報学）	0.73	平成19年度				
総合情報学部 計						0.93					

・名称変更  
平成18年度より  
応用化学科  
応用化学専攻、  
生物・環境化学専攻  
→バイオ・応用化学科

平成17年度より工学部  
福祉システム工学科を  
廃止し、知能機械工学  
科を設置。

平成18年度より総合情  
報学部コンピュータ  
シミュレーション学科  
は募集停止し、在学生  
の卒業をもって廃止。  
入学定員40名は建築学  
科に振替。

平成19年度より工学部  
生体医工学科、総合情  
報学部建築学科を設  
置。

・名称変更  
工学部電子工学科  
→電気電子システム学科

総合情報学部社会情  
報学科地域人間情報  
専攻、情報社会シス  
テム専攻の専攻を廃  
止。

既設大学等の状況	(理学専攻科)										
	応用数学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度			
	化学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度			
	応用化学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度			
	応用物理学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度			
	機械理学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度			
	電子理学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度			
	教職特別課程	1	50	—	50		0.18	平成2年度			
既設大学等の状況	大学の名称	千葉科学大学									
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	(薬学部)	年	人	年次人	人		倍		千葉県銚子市潮見町3番地		
	薬学科	6	200	4年次 10	725	学士(薬学)	1.21	平成18年度	開設年度 薬学部薬学科(4年制課程)は平成16年度に開設したが、改組により薬学科(6年制課程)へ平成18年度に移行した。		
	薬科学科	4	50	—	70	学士(薬科学)	1.05	平成18年度			
	薬学部計						1.21				
	(危機管理学部)			3年次					平成16年度薬学部薬学科(4年制課程)入学定員200名、編入学2年次5名、収容定員405名(平成17年度まで) →平成18年度は薬学部薬学科(6年制課程)入学定員120名、編入学4年次5名(平成18年度)  平成19年度より入学定員・編入学定員を変更した。(純増) 薬学部薬学科(6年制課程)入学定員120名→200名(+80) 編入学定員4年次10名(+5) 薬学部薬科学科20名→50名(+30)		
	防災システム学科	4	70	5	290	学士(危機管理)	1.01	平成16年度			
	環境安全システム学科	4	70	3年次 5	290	学士(危機管理)	1.20	平成16年度			
	危機管理システム学科	4	70	3年次 5	290	学士(危機管理)	1.24	平成16年度			
	危機管理学部計						1.15				
	附属施設の概要										

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置、大学の大学院の研究科の専攻に係る課程の変更又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合は、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 私立の大学又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 3 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 空欄には、「—」又は「該当無し」と記入すること。

## 学科設置の趣旨

### ア 設置の趣旨及び必要性

#### 美術工芸学科

##### ・01 (a) 教育研究上の理念、目的

倉敷芸術科学大学芸術学部では美術、工芸、映像、デザインの各分野で教育研究を行なっている。学生には、幅広い芸術分野の基礎的、専門的知識と技術を修得させ、伝統技術や最新技術を応用して社会に貢献できる人材の育成を目指している。

本学部における美術及び工芸分野の研究・教育は、これまで美術学科及び工芸・デザイン学科の2学科に分かれて行われてきた。しかしながら、急速に変化を遂げる現代の美術や工芸の動向を見ると、歴史的・伝統的な基盤を重視しつつも、特定の領域にこだわらず「美術」と「工芸」の2分野を横断した新しい発想による表現が現れてきている。

また近年、政治経済における構造改革が進む中で、芸術・文化活動においても大きな変化の波が押し寄せており、これまで行政主体で進められてきたさまざまな文化事業の企画・運営も、NPO法人など民間の手に委ねられることが一般的になってきている。そこでは、作り手と観る側のそれぞれが、相異なる立場から芸術活動に関わるのではなく、両者が共に協力し合い企画し運営するという新たな組織形態が求められており、必然的に今後この分野において、アートプロデューサーとしての総合的な資質や能力を有する人材の需要が高まるものと思われる。

そこで、こうした社会的動向をふまえ、美術学科を母体とし、従来の方分野別での研究形態に加えて、絵画や彫刻、陶芸、ガラス工芸における技法や理論を領域横断的に学び、それぞれの分野の特性や理念、価値観を尊重しつつも、新しいスタンスで芸術表現の可能性を探り、幅広い視点に立った教育・研究を目指す。

さらに、単に制作者としてだけでなく、芸術学や美術史などの芸術理論を基礎とし、多様な日本文化をふまえながら芸術文化についての理解を深めるとともに、情報の調査や分析などを通して論理的な考察力を養い、実務者として芸術・文化事業などの企画・運営に携わるアクティブな人材の育成を図る。

##### (b) どのような人材を養成するのか

美術工芸学科では、単に細分化された個別の美術及び工芸分野の専門家としてだけでなく総合的な見地から、新たな表現価値と社会的価値を創出できる人材を育成することを目標とする。そのためには、美術及び工芸の専門知識や技術を包括的に学習することで感性と創造力を磨き、また世界や地域の芸術・文化・歴史に対する理解を深め、高度な情報調査と分析力、考察力と企画力を養い、アートプロデューサーとしての総合的な能力を身に付けた人材を育成する。

卒業後の進路及び就職先としては、学芸員や教員をはじめ、美術作家、工芸作家、芸術学や美術史などの研究者、イベントや文化事業のプランナーやコーディネーター、NPO等の法人職員、放送局などマスコミ機関、芸術をビジネスとして展開するアートディーラー、自治体等の地域再生まちづくりやまちおこしに関わる部門や団体など、実務者として幅広い就職先を想定している。

#### デザイン学科

##### (a) 教育研究上の理念、目的

芸術学部においてはこれまで、デザイン領域の教育研究としては、工芸・デザイン学科におけるプロダクトデザイン及び染織工芸と、映像・デザイン学科におけるグラフィックデザインなどが行われてきた。しかしながら、近年のデザイン職能に対する要求の多様化や高度化などの変化に伴い、その求められる人材も、単一領域の専門スキルの保有に留まらず、人々の生活や社会の



様々な問題に対してデザインの諸領域を融合した総合的な提案ができることやプロデュース能力を有することなどに変化してきている。

このような状況を踏まえ、工芸・デザイン学科を母体として新たにデザイン学科を設置する。デザイン学科の教育研究上の理念及び目的は以下の通りである。

1. 今日の社会が生産型から創造型に転換が進む中、デザインには社会先導としての仮説提示や人、モノ、空間、システム、情報などとの関わりを通じた包括的な経験価値の創出という役割が求められている。そのために、従来の細分化されたデザイン領域にとらわれず、ものづくりから空間や情報分野にまで幅広くデザインの諸領域を融合した、総合的なデザインの教育研究を行う。
  2. 人間中心設計の考えに基づく包括的な体験価値の創出のためには、デザイン領域を超えたデザインアプローチが必要となる。全学年を通して総合デザイン科目を設けることなどにより、単一の専門デザイン領域だけでなく、各デザイン領域相互の関係性を理解でき、総合的なデザイン表現ができる人材の育成を行う。
  3. 倉敷芸術科学大学が立地する岡山県倉敷市は全国でも有数の観光地であり、また繊維産業などの地場産業も盛んであることから、観光を含む産業やまちおこし行政等、デザインによる振興や活性化の施策が幅広く求められている。倉敷市、さらに岡山県等地域のデザインニーズに対して、連携プロジェクトなどにより総合的なデザインソリューションで応え貢献する。
- (b) どのような人材を養成するのか（卒業後の進路をどう考えるのか）
1. デザイン学科では、個別のデザイン領域の専門家であるとともに、領域横断的な総合的見地から社会、産業、生活ニーズに対して、新たな価値創出・実践できる人材を育成することを目標とする。
  2. そのためには、デザインの専門知識や造形技能を学習することで感性と創造力、表現力を磨き、最新のデジタル技術とそれを応用した表現を習熟することで提案力を高め、さらに様々な実践的プロジェクトを通して社会や人々の生活の中から問題を発見し考える力をつける。また、実践的プロジェクトからデザインプロジェクトを計画・運営するプロデュース力を育成する。
  3. 卒業後の進路及び就職先としては、イラストレーター、グラフィックデザイナー、プロダクトデザイナー、テキスタイルデザイナー、染織作家、空間デザイナーなど、企業のデザイン、広報、企画部門等を始め、自治体等の地域再生やまちづくりに関わる部門、団体等、幅広い就職先を想定している。

## 観光学科

### (a) 教育研究上の理念、目的

世界観光連盟（WTO）によると、全世界の外国旅行者数は、1970年には1億5900万人であったものが、2000年には6億9700万人に増加し、2010年には10億人、2020年には16億人に達すると予測されており、日本人海外旅行者数も2004年以降増加している。

わが国政府でも、2003年、観光立国懇談会を立ち上げ、日本を訪れる外国人観光客の倍増計画を打ち出しており、2005年では673万人と前年比9.5%の伸びを見せた。ただし、外国人旅行者は関東・関西の2大都市圏に集中している。国内旅行に関しては、「平成17年度

観光の状況」によると、国民の国内宿泊観光旅行は、景気の回復基調を背景に回復の兆しが見られる一方で、付加価値の高い旅行商品の企画・開発が求められている。

「平成18年度版観光白書」は観光ルネサンス事業に関して、地域再生の観点からも観光地の活性化が重要であることを指摘している。さらに、日本経済団体連合会の「国際観光立国に関する提言」（2005年6月21日）には、「地域発の魅力開発（都市生活、食文化等）に向けた総合的プロデューサーの育成」の推進、「多言語による情報提供の推進」、「世界に向けた情報発信」の推進が盛り込まれている。しかしながら、観光教育の面では、観光関連学部・学科の入学定員の構成比や学生数の構成比でみると、2大都市圏が半数以上を占めているのが現状である。

本学の立地する倉敷は、倉敷川畔が重要伝統的建造物群保存地区に指定され、また市が観光ルネサンス補助対象地域に選定されている。また、瀬戸内海国立公園の一部として鷺羽山・瀬戸大橋を有し、また県北を中心とした温泉も全国的に知られ、貴重な観光資源を有する都市である。

以上のような、時代的・地域的背景を踏まえ、本学に観光学科を設置し、倉敷を中心とした瀬戸内圏振興に寄与できるようなリーダー的人材の育成を目指す。

倉敷芸術科学大学は、1995年4月に「芸術学部」「産業科学技術学部」「教養学部」の3学部体制で発足した。発足当時の産業科学技術学部の構成は、ソフトウェア学科と機能物質化学科の2学科であった。しかしながら、その後の社会情勢の変化に直面した本学は、新しい社会的ニーズに対応すべく、2001年度には、機能物質化学科の名称を生命化学科に変更。2004年には、ソフトウェア学科をコンピュータ情報学科に名称変更。さらに、2005年4月には生命化学科を生命科学科に変更後、新たに立ち上げた生命科学部に移動するとともに、それまで国際教養学部（旧教養学部）に所属していた起業学科を産業科学技術学部に移転するという大幅な改組を実施した。その結果、産業科学技術学部の性格は文系・理系の両面の性格を有することとなった。

観光学科は、まちおこしのリーダー的人材の育成、観光メディアに携わる人材の育成、観光産業を担う人材の育成等を目的としており、起業学科及びコンピュータ情報学科の教員を中心に設置されるものであり、産業科学技術学部内に設置されるのがふさわしい。

(b) どのような人材を養成するのか

1. 本学科では、観光の果たす役割の重要性を十分認識し、卒業後、責任感と誇りを持って観光関連業務に就ける人材を養成する。
2. 地域の歴史、文化、芸術、産業を正しく理解し、それらを有機的に結びつけ、地域社会の活性化に貢献できる人材を養成する。
3. 諸言語を習得し、Web等を使って日本国内のみならず、海外に向けても観光情報の発信が出来る人材の育成を目指す。
4. 外国人留学生に対しては、母国における対日本人旅行者のガイドやホテル関連等に従事する人材の養成を行う。
5. 卒業後の主な就職・進路として、観光業・宿泊業・旅客輸送業等の観光関連業界、テーマパークや趣味・娯楽等のレジャー産業分野も有望な就職先となろう。まちおこしの関連からは、地方自治体や商工会議所等への就職も考えられる。

## イ 学科の特色

### 美術工芸学科

1. 美術分野と工芸分野の領域横断的な学習と研究

本学では開学以来、美術及び工芸分野の教育及び研究を別々の学科において行ってきたが、

今回、「美術」と「工芸」の2分野を統合して「美術工芸学科」とすることにより、ファインアートと工芸制作の異なる制作理論と技術の融合を試み、さらには既成の枠を越えた新たな制作表現の可能性を探る。学生個々の専門領域における、基礎的な技能の習熟を図ることはもちろんであるが、それぞれのニーズに応じて専門領域にこだわることなく、複数の実技系領域を統合的に学習できる教育カリキュラムを積極的に取り入れた授業の展開を図る。

## 2. 地域興しなどで期待されるアートプロデューサーの育成

美術工芸学科では、油画、日本画、彫刻、現代表現、陶芸、ガラス工芸の各実技系コースに加え、芸術文化企画コースを新設する。芸術文化企画コースでは、美術史や美学・芸術学などの芸術理論に関する基礎的な学習とともに、幅広い視点から現代芸術と文化との相互的な関係についての研究を行う。また学術的なアプローチだけでなく、「芸術文化特別演習Ⅰ」及び「同Ⅱ」などの演習を通して、作品展やワークショップ、その他各種イベントの企画と立案、運営方法などについて、高度な知識とノウハウを習得させる。地域社会や個人依頼者等からの多様なニーズに対応できる、豊かな感性と実務能力を有したアートプロデューサーの育成を図る。

## 3. 地域関連機関との緊密な連携と協力

倉敷芸術科学大学がある岡山県倉敷市は、江戸時代には天領として栄え、豊かな自然と歴史により育まれてきた伝統と文化の街である。市内には、西洋美術、近代美術を展示する日本最初の美術館である大原美術館があり、西洋からエジプト、中近東美術から日本近代美術に至るまで、名品名作を間近に鑑賞することができる。

美術工芸学科では、地元倉敷の優れた歴史と伝統により培われてきた文化に触れ、またそれらを教育と研究の場で有効活用するために、地元機関等との交流や共同研究を積極的に推進したいと考えている。特に大原美術館やライフパーク倉敷においては、これまでも模写の授業や博物館実習の場として協力を得ており、学生たちへの教育効果は大きい。また、大原美術館に隣接する加計美術館（学校法人加計学園所有）には、修士課程の卒業制作展をはじめ学生や教員の研究発表の場として積極的な協力を得ている。さらに、倉敷チボリ公園内の加計学園・チボリセンターにおいては、不定期ではあるがデッサン会や各種研究会等の企画が持たれている。今後もこれら関係機関と密接に協力、協同して地域文化の発展と優れた人材育成に貢献したい。

## デザイン学科

1. 倉敷芸術科学大学にはデザイン学科が属する芸術学部他、産業科学技術学部と生命科学部との合計3学部があり、科学分野と芸術分野に跨る学部を持つ大学として広範な教育研究を行っている。デザイン学科では、デザインや芸術分野からのアプローチのみならずこれら科学分野との連携により、幅広いアプローチの教育研究を行う。

2. デザイン学科にはイラストレーション、グラフィックデザイン、プロダクトデザイン、テキスタイルデザイン、空間プロデュースの5領域を有する。それぞれの専門領域の掘り下げに加えて、これらをベースに各領域を融合した総合的なデザインの教育研究を行う。そのために、学生のニーズに応じて個別の専門領域の演習・実習科目の他に、別の専門領域科目の履修ができ、さらに領域を横断した演習・実習科目を設けるなど、総合的なデザインの教育研究が行える特色ある教育カリキュラムとしている。

3. 産業界や地域社会との密接な連携や協力を行うための体制として、教員全員が担当する総合プロジェクト実習科目を設け、連携プロジェクトを推進していく。これにより、教育研究を実社会のニーズに応じたものにすると同時に、地域の発展と優れた人材育成に貢献する。

#### 観光学科

観光学科の特色としては以下のようなものがあげられる。

1. 地域の歴史、文化、芸術、産業といった観光資源を正しく理解し、有機的に結びつけ、観光を計画する。
2. 諸言語やWeb等を使い、全国や世界に観光情報を発信する。また、海外の情報発信先となる英語圏やアジア諸国の事情についても学ぶ。そのため語学教育を重視している。
3. 倉敷市を中心として、岡山県そして瀬戸内地域も視野に入れ、観光の側面から地域活性化の方途を探っていく。
4. 「現地で学ぶ」、「体験して学ぶ」ことを重視し、フィールドワークや国内外の実習を充実させる。

上記の特色を踏まえて、3つのコースを設ける。

まちおこしコース：地域の歴史、文化、芸術、産業を正しく理解し、さらにそれを地域振興に役立てる方法を学ぶ。

観光メディアコース：収集した観光に関する情報を諸言語と情報技術を使い、全国、世界に発信する方法を学ぶ。また、アナウンサーや観光ガイドについても学ぶ。

観光産業コース：観光マーケティング等の観光実務を身に付けるとともに、観光、ホスピタリティ、余暇・レクリエーションのあり方について学ぶ。また、アナウンサーや観光ガイドについても学ぶ。

#### ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

##### 美術工芸学科

学科名は「美術工芸学科」(Department of Fine and Applied Arts)とする。

「美術工芸」の名称は学部名、また学科名としてこれまでも使用されており、本学においても学科の教育内容を表す上で最も適切な名称であると考えます。

学位は学士(芸術)とする。

##### デザイン学科

学科名は「デザイン学科」(Department of Design)とする。

デザイン学科の名称は広く一般に使用されているが、デザイン分野の学科の内容を表す上で最も適切なものである。

学位は、学士(芸術)とする。

##### 観光学科

学部名称：産業科学技術学部 (College of Science and Industrial Technology)

学科名称：観光学科 (Department of Tourism Creation)

観光学科の名称は広く一般に使用されており、学科の内容を表す上で最も適切なものである。

学位名称：学士(産業科学技術) (Bachelor of Science and Industrial Technology)

当観光学科が産業科学技術学部を設置されることを理由として、同学部の他の2学科と同様の学

位とする。

## エ 教育課程の編成の考え方及び特色

### 美術工芸学科

美術工芸学科における授業科目は、教養科目と専攻科目に大別されるが、専攻科目はさらに芸術学、美術工芸基礎、芸術文化企画コース、油画コース、日本画コース、彫刻コース、現代表現コース、陶芸コース、ガラス工芸コース、関連科目、卒業研究の11の系列に分類されている。

このうち教養教育については全学的な取り組みとして、随時科目の入れ替えを行うことにより、時代と学生の動向・ニーズに応えることが出来るよう配慮している。科目の系列としては、「文化（哲学・歴史学など）」、「社会（政治経済など）」、「自然（物理学・化学など）」、「外国語（英語・中国語・ドイツ語など）」、「保体」などを配置し、基礎的な学力や体力の補完を目指している。また、グローバル化する文化と社会に対応し、望ましい国際感覚を身に付けさせると同時に、我が国固有の文化についても深く関心を持たせるために、「世界と日本」や「日本の伝統芸能」などの科目を設けている。さらに、個々の学生が積極的に自分自身の将来について考え、社会人として身に付けておくべき倫理観やコミュニケーション能力、情報処理能力などの習得を図るための科目も取り入れている。具体的には「人間の発達と形成」や「人生と仕事」、「キャリアラーニング」などの科目である。

専攻科目としては、美学、美術史など芸術学に関する18科目を、すべての専攻コース（芸術文化企画・油画・日本画・彫刻・現代表現・陶芸・ガラス工芸）の学生に対して共通の科目群として開講する。

また、芸術文化企画コースの科目群では、国内外の文化や芸術についての幅広い知識を教授する科目に加え、イベントの企画・立案と運営までを一貫して演習形式で学習する「芸術文化特別演習Ⅰ」、「同演習Ⅱ」を開講する。さらに、学芸員資格取得科目を配置し、すべての専攻コースの学生が受講できることとする。（資料1）

実技系コース（油画・日本画・彫刻・現代表現・陶芸・ガラス工芸）の科目は、いずれのコースにおいても年次進行に伴い同数（13科目）の科目数にそろえることを基本にしている。

ただし、現代表現コースの系列科目に限っては、教職免許の取得要件で指定する「映像メディア表現を含む」演習科目（「絵画演習Ⅳ」）を加え14科目を配している。（資料2）

関連科目には、芸術学や各コースの教育内容に関連した科目を配したが、特に今回の美術工芸学科新設の目的でもある、「美術」と「工芸」の融合及び領域横断的な教育と研究を実践するための科目として「領域横断テーマ演習」を新設した。この科目は、実技系コースの学生が、それぞれの専攻する分野についてある程度の知識と技能を習得していることが予想される3年次前期に開講する。個々の学生の希望を十分に配慮しながら、異なるコースの教員が複数で指導に関わるユニークな授業形態を目指す。画一的な成果を期待するものではなく、既成の枠組みや概念を越えた研究成果を期待している。

学部4年間の集大成ともいえる卒業研究は、芸術文化企画コースの学生は卒業論文、また実技系コースの学生は卒業制作に取り組ませるものとする。ただし、学生の希望に十分配慮し、指導教員が必要と認めた場合は、論文と作品の両方に取り組むことを認める方針である。

その他、本学の関連学園相互による「加計コンソーシアム」や、岡山県内の15大学が組織する「大学コンソーシアム岡山」で実施されている単位互換制度も積極的に取り入れる。

## デザイン学科

倉敷芸術科学大学における授業科目は、教養科目と専攻科目の2つの科目群に分類されている。教養科目と専攻科目いずれも卒業に必要な科目群である。教養科目は学部共通の文化、社会、自然総合、外国語、保体、を主とする科目である。教養教育については、全学的な取り組みとして、随時科目の入れ替えを行うことにより時代と学生の動向・ニーズに応えることが出来るよう配慮している。

デザイン学科の専攻科目は、「芸術学」「デザイン理論」「デザイン基礎」「イラストレーション」「グラフィック・デザイン」「プロダクト・デザイン」「テキスタイル・デザイン」「空間プロデュース」と「総合デザイン・プロジェクト」及び「関連」の科目群で構成されている。

「芸術学」科目において美学・芸術学、美術史、デザイン史や色彩学に関する基礎的・教養的教育を行う。

「デザイン理論」科目において1～2年次はデザインに関する教養的・一般的事項を講義形式により教授する。3～4年次はより専門的及び実社会の動向を含めたデザインに関する知識を教授する。

「デザイン基礎」科目においては、平面、立体、空間の造形の基礎、コンピュータ利用によるデザイン、図学や製図によるコミュニケーション能力を高め、写真や印刷の技術的知識を演習形式で習得する。これらの教育を前提として、「イラストレーション」「グラフィック・デザイン」「プロダクト・デザイン」「テキスタイル・デザイン」「空間プロデュース」に分けた5コースの専攻科目を設定する。基本的設定として、2年次までの科目は全員を対象にし、3年次以降の科目はそれぞれのコースを主として修める者を対象としている。

さらに「総合デザイン・プロジェクト」科目は特定の専門コースにとらわれることなく1～2年次はデザインワークショップやプレゼンテーション、生活造形や環境造形の演習を通じて基礎的、総合的な視点を養う。3～4年次は地域再生、産学連携、教育・福祉などのテーマにより横断的な総合プロジェクトの実習を設け、地域社会や企業等において実体験することにより生きた知識の習得をすることが期待できる。

デザインに関連する他領域分野の知識を深めるために「関連」科目を設けるとともに、教員免許や博物館学芸員資格を取得するための科目を設定してある。

4年生においてまとめをするために「卒業研究」を課す。

デザイン学科の卒業生として最低限の質を保証するため、「デザイン基礎」「総合デザイン・プロジェクト」において以下の科目を必修とする。

「デザイン基礎」のうち、デザイン基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、絵画基礎Ⅰ、Ⅱ、彫刻基礎

「総合デザイン・プロジェクト」のうち、デザインワークショップⅠ、Ⅱ

「卒業研究」

以上の必修科目26単位を設定する。

他の専攻科目は選択科目とするが、「イラストレーション」「グラフィック・デザイン」「プロダクト・デザイン」「テキスタイル・デザイン」「空間プロデュース」のコース毎に履修モデルを設定して、学生の希望する進路に応じた指導を行う。学部卒で社会に出て行くものが多いことを想定して（大学院進学者は5～10%を予想している）実習・演習など体験的学習を重視した教育を行うことを特色としている。（資料3～5）

## 観光学科

観光学科では、上記ア及びイで示した人材を育成するため、以下のような方針で教育課程を編成する。

教育課程は、教養科目と専攻科目から構成され、そのうち教養科目は全学共通に開設する。専攻科目は、コース科目（まちおこしコース、観光メディアコース、観光産業コース）、コース共通科目、関連科目で構成される。

卒業の条件は、教養科目20単位以上、専攻科目90単位以上、合計で124単位以上である。

基礎的科目となるコース共通科目と関連科目に、海外事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、コンピュータリテラシ、ビジネス英語、経済学原論Ⅰ・Ⅱ、商法総論、民法総論、アジアビジネス論、西洋思想概論、東洋思想概論、ビジネス法Ⅰ・Ⅱ、ビジネスと宗教、政治学史、国際政治学を、起業経営学科（名称変更予定）との共通科目としておく。

3つのコースに共通する科目として、観光概論、倉敷学、瀬戸内の文化と観光、旅行者心理学、外国語科目群、インターンシップ（国内実習を含む）、観光特別実習（海外実習を含む）等をおき、学科の独自性を出すと共に、国内外の実習も踏まえて倉敷を中心とした瀬戸内、日本及び世界の諸地域に対する理解を深める。少人数の教養ゼミを必修とし、思考力、表現力、討論能力を深め、プレゼンテーションの仕方などを習得させる。（資料7～8）

「まちおこしコース」においては、地域活性論、イベント論、都市計画論等のコース専門科目をおき、自治体との連携や産学連携を図る。

「観光メディアコース」においては、高度情報化社会における観光産業を見据え、情報の収集・編集・発信に関する科目群（旅行情報システム、観光メディア論等）をおく。

「観光産業コース」では、ホスピタリティ関連科目や、宿泊経営論・総合旅行業務論等の実践的な専攻科目でカリキュラムを編成する。

## オ 教員組織の編成の考え方及び特色

### 美術工芸学科

美術工芸学科の専任教員は18名で組織する。（その他助手1名）

実技系科目を担当する専任教員として油画コース3名、日本画コース2名、彫刻コース1名、現代表現コース2名、陶芸コース3名、ガラス工芸コース3名を配置する。実技系の各分野において、十分な演習・実習・卒業研究指導が行なえるよう、分野ごとに十分な知識、技能を持った専門の実技指導教員を配置している。さらに、ひとつのコースにあっても、さまざまな側面から広く専門分野の指導が受けられるよう配慮し、専任及び兼担の複数で教育にあたる。

また理論系科目を担当する専任教員として芸術学1名、美術史2名、教育学1名を配置し、芸術及び文化について基礎的内容から専門領域に至るまで一貫した研究指導を行なう。その上で、芸術文化企画コースにおいては、実際に地域社会の中でアートプロデュースに携わっている兼任教員も配し、「芸術文化特別演習Ⅰ」や「同演習Ⅱ」など、実践的な芸術文化事業などの企画・運営に関する授業を展開する。

### デザイン学科

デザイン学科の専任教員は完成年次12名で組織される。ただし、「芸術学」科目担当は芸術学部全体に開講しているため兼任教員を中心に担当する。デザイン学科の専任教員の担当は専攻科目であり、その内訳は、ほぼ全員が担当する「デザイン理論」科目をはじめ、主たる演習・実習担当分野として「デザイン基礎」科目担当2名、「イラストレーション」科目担当2名、「グ

グラフィック・デザイン」科目担当1名、「プロダクト・デザイン」科目担当1名、「テキスタイル・デザイン」科目担当3名、「空間プロデュース」科目担当2名、「関連」科目担当1名である。「総合デザイン・プロジェクト」科目はほぼ全員が担当する。

なお「デザイン基礎」科目担当2名は各コース科目も一部担当している。その職位は教授7名、准教授2名、講師3名である。

また取得学位は、専門博士1名、修士（文学）1名、（以上は重複）修士（芸術）1名、修士（造形）1名、学士（美術）2名、学士（芸術）1名、学士（工学）1名となっている。

就任予定教員の現職は、大学在籍者9名、本学非常勤講師1名、他大学非常勤講師1名、民間企業1名である。デザインは多様な分野と関係していると共に、デザインの現場はそれぞれ異なった条件の元に構成される。したがって、各現場における種々の条件に的確に対応する能力が必要である。これらのことを学生に教授するために、本学専任教員を含めて企業やデザイン現場等で豊富な経験を有するものを重点的に配置している。学生の就職においてこれらの経験豊富な教員の指導が活用されるであろう。

#### 観光学科

観光学科の専任教員は10名で構成され、その職位は教授5名、准教授4名、講師1名である。

就任予定教員の現職は、大学教員9名、民間企業1名である。観光は多様な分野と関係しており、現地における様々な問題に的確に対応する能力が必要である。これを学生に教授するために、観光企業で豊富な経験を有するものを配置している。学生の就職においてもこの経験豊富な教員の指導が活用されるであろう。専任教員で対応できない科目については、適任者を兼担・兼任により担当してもらう。

なお上記3学科において、平成20年度に就任予定教員で完成年度までに定年規定（学校法人加計学園就業規則第58条第2項）に抵触する者については、同第58条第3項により担当してもらうこととしている。

（学校法人加計学園就業規則第58条第3項）

理事長は新たに学校・学部又は学科等を設置する場合又はその他業務上必要とする場合は、理事会の承認を得て、その完成年度終了まで又は業務上必要とするまでの間、関係職員の定年を延長することができる。

#### カ 教育方法、履修方法及び卒業要件

##### 美術工芸学科

美術工芸学科における開講科目は、教養科目（39科目）及び専攻科目（145科目）の計184科目である。教養科目については、全学的にカリキュラムが統一されており、「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」（外国人留学生は「日本語Ⅰ」及び「日本語Ⅱ」）を必修科目に指定している。

「人生と仕事Ⅰ」、「人生と仕事Ⅱ」、「キャリアラーニング」など進路指導に関連する科目、外国語及び保体の系列科目は受講年次、学期を指定しているが、その他の科目（文化系列科目、社会系列科目、自然系列科目など）については、特に受講すべき年次を指定していない。学生自身が各自の興味や関心の状況に合わせて、主体的に履修計画が立てられるよう配慮している。

専攻科目は講義系科目（46科目）と演習実習系科目（演習55科目、実習44科目）を配置している。科目の配当は、年次の経過に従って基礎から応用へ、一般的な内容から専門性の高い



内容へ、という観点から配当している。このうち、芸術学系列の科目については18科目中7科目（14単位）以上を修得することを条件とする。

履修に関する指導としては、入学時に芸術文化企画コースの専攻を希望する者と、その他の実技系コースの専攻を希望する者を調査し、それぞれの学生の希望に沿って個別の履修指導を行う。1年次では、芸術文化企画コースの専攻を希望する者も、その他の実技系コースの専攻を希望する者も、前期に開講する美術工芸基礎系列の科目のうち「美術工芸基礎演習Ⅰ」「美術工芸基礎演習Ⅱ」「基礎デッサン」の3科目を必修科目に指定する。

なお、3科目とも学年の人数と施設・設備の状況、教室の床面積などを考慮し2クラスに分けて開講する。また芸術文化企画コースの専攻を希望する者には、同コースの系列科目である「文化研究A」及び「文化研究B」、後期は「文化研究C」「文化研究D」も合わせて履修するよう指導する。

実技系コースの専攻を希望する者については、1年次後期に開講する美術工芸基礎系列の科目から、個々の希望に応じて複数の基礎演習科目を履修することを指導し、2年次進級時に各自の希望により専攻するコースを決定させるものとする。なお2年次以降において、個々の学生が専攻するコースの科目に特殊化した受講が出来るよう、芸術文化企画コースとその他の実技系コースに分けて履修モデルを設定している。（別途資料1：美術工芸学科履修モデル）

履修科目の登録については1年につき48単位を上限と定める。ただし専攻科目以外の教職に関する科目と学芸員資格に関する科目、また他学部他学科科目及び単位互換科目については、履修登録の上限には含めないものとする。

卒業要件は、教養科目より20単位以上、専攻科目より90単位以上、総計で124単位以上修得するものとする。なお、3年次から4年次への進級要件として、芸術文化企画コースを専攻する者は3年次終了時までには芸術文化企画コースの科目群より24単位以上、また、その他の実技系コースを専攻する者は18単位以上、専攻する実技系コースの科目群より修得しておくことを規定する。

## デザイン学科

デザイン学科は定員35名の少人数であり、「デザイン理論」科目のデザイン理論Ⅰ～Ⅴ等の科目、サステイナブルデザイン論やユニバーサルデザイン論等の今日的テーマの理論、産業界から講師を招くデザイン特論等や、「関連」科目の認知科学概論、知的財産権、色彩計画などの講義科目については、芸術学部全体に開講している「芸術学」美学・芸術学概論、西洋美術史、日本美術史、デザイン史、等を含め、選択科目ではあるが時間割が許す限り全員を対象として講義することを基本とする。

「デザイン基礎」科目は1クラスの35名授業で、デザイン基礎Ⅰ～Ⅲや絵画基礎Ⅰ～Ⅱ彫刻基礎などの科目において構成力や、造形力を身につけるための演習科目で約半数の科目が必修科目となっている。コンピュータ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはコンピュータ演習室で開講するが、最近の普通教育機関や家庭にまで及ぶIT化の普及により、コンピュータスキルは個人により相当差があるため、必修にせず履修モデルやシラバス等でリテラシーのレベルを明示し選択科目として開講する。

製図学、製図演習Ⅰ～Ⅱ及び写真演習、印刷演習については選択科目で、履修モデルやシラバス等で専門の5コースに対応して必要性を明示し選択科目として開講する。

配当年次は、基礎から応用へ、身近なものから一般的なものへ、個別の造形レベルから全体的

なマネジメントレベルへ、という観点から担当している。

2年次までは「イラストレーション」「グラフィック・デザイン」「プロダクト・デザイン」「テキスタイル・デザイン」「空間プロデュース」の各コース演習科目Ⅰ～Ⅱも全員が時間割の許す限りの幅広い受講を基本とし、3年次以上において5コースに特殊化した実習科目Ⅰ～Ⅳの受講が出来るようモデルを設定している。(別途資料2～3：デザイン学科履修モデル)

「総合デザイン・プロジェクト」科目はデザインワークショップⅠ～Ⅱを必修科目とし、デザインプレゼンテーションⅠ～Ⅱ、生活造形演習Ⅰ～Ⅱ、環境造形演習Ⅰ～Ⅱにおいて専門のコース科目を補完することとデザインの総合性を担保する演習科目は可能な限り幅広い履修を促し、地域再生、産学連携、教育・福祉などに関するテーマにより総合プロジェクト実習Ⅰ～Ⅲは専門性の総合化やチームワーク、社会や企業との関係性に重点を置く科目である。

卒業の要件は、専攻科目90単位以上、教養科目20単位以上、総計124単位以上とする。履修科目の登録については大学全体の制度として1年につき48単位の上限が設定されている。本学科もこれに従って運用する。

## 観光学科

配当年次は基礎から実践へ、身近なものから一般的なものへ、ローカルからグローバルへ、という観点から担当している。観光学科の特色として、語学教育を重視し、英語14単位を必修、第二外国語(中国語・ハンガール・フランス語)12単位を選択必修とする。

1年次に少人数制による教養ゼミを必修とし、思考力、表現力、討論能力を深め、プレゼンテーションの仕方などを修得させる。1・2年次ではコース共通科目で学科の基礎を築くとともに、各コースの専攻科目を配置し、体系的に学べるようカリキュラムが組まれている。3年次ではインターンシップ(国内実習を含む)を、4年次では観光特別実習(海外実習を含む)を設定し、実習教育も重視している。

卒業の条件は、教養科目20単位以上、専攻科目90単位以上、合計で124単位以上である。(別途資料5～7：観光学科履修モデル)

履修科目の登録については、1年間に履修できる上限単位数が48単位と設定されている。本学科もこれに従って運用する。

倉敷芸術科学大学は加計教育コンソーシアム、大学コンソーシアム岡山、放送大学との単位互換制度により、関連大学、岡山県内の4年制大学、及び放送大学で修得した単位を卒業・進級に必要な科目・単位に加えることができる。本学科もこれに従って運用する。

## キ 施設、設備等の整備計画

### (a) 校地、運動場の整備計画

本学は学生の教育研究活動、さらに人格形成に必要な学生生活が送れるよう、教育研究環境にふさわしい校地・運動場の充実を図ってきた。校地は岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地に所在し、水島工業地域を見渡す小高い丘の上に建ち、晴れた日には瀬戸内海、瀬戸大橋、遠く四国を望むことができる。その校地面積は176,175.98㎡であり、この面積は設置基準の校地面積88,986㎡に対して、85,808㎡の基準面積超過となっている。

体育関係の授業や課外活動を行う運動場、体育館は敷地内に設けている。

学生の休憩場所、更生施設については、学生課が「環境整備のための学生アンケート」を実施し、その要望をまとめ充実をはかっている。平成17年度には、208.8㎡の学生控室(25

号館)を敷地中央に設けた。ガラス張りの明るい空間は冷暖房完備で飲み物などのベンダーコーナーがあり、学生たちの憩いの場になっている。

## (b) 校舎等施設の整備計画

### 美術工芸学科

基本的に教室、実習室、図書館、会議室等の校舎施設は、現有の施設を活用する予定である。

研究室は専任教員一人当たり24㎡を基準とする部屋を準備している。芸術学部系の校舎面積は、8,577㎡で基準校舎面積5,107㎡を十分確保している。

美術工芸学科においては、既存の施設として12室の絵画彫刻系演習実習教室、また工芸系では備前焼登窯(薪窯)やガラス溶解炉などを含む8室の演習実習教室を活用し、1年次生が「美術工芸基礎演習Ⅰ」、「同演習Ⅱ」(オムニバス形式による演習)で、油画、日本画、現代表現、彫刻、陶芸、ガラス工芸のすべてを体験することができるように、また2年次生以降についても既存の施設設備を存分かつ安全に使用できるよう整備している。

平成18年度には実習室を改装し、授業での講評会や学生が作品発表の場として活用できるミニギャラリー(72㎡)を開設した。

### デザイン学科

芸術学部全体の施設面積のうち、共用部分(廊下、トイレ、事務室、応接室、学部長室、大学院講義室、準備室、木工室、塗装室、プラスチック加工室、金工室、スタジオ、暗室、機械室、電気室、LAN機器室等)及び研究室を除いた、演習実習室等の総面積は約4,844㎡であり改組後の定員1学年110名×4=440名に対して一人当たり10㎡を十分超える面積である。共用部分を加えた校舎面積は、8,577㎡で基準校舎面積5,107㎡を十分確保している。

今回の改組に伴っては、基本的には年次進行に伴い、現有施設の有効活用によって順次、施設を1,100~1,200㎡程度を目安として整備する予定である。デザイン学科について完成年次に置いて1学年35名×4=140名となり、デザイン学科の演習・実習が作品制作空間を必要とするテキスタイルデザインコースを含み、他のコースは主に図面制作や、プレゼンテーション用グラフィック作成、デスクワーク及び、縮尺模型を含む各種立体モデル制作となることを考慮すれば、1名あたり平均8㎡程度を下らない面積が必要となる。

基本的に講義などの教室、学生控室、図書館、会議室等の校舎施設は現有の施設を活用する予定である。研究室は専任教員一人当たり24㎡を基準とする部屋を準備している。

デザイン学科の教育に必要な特殊施設は次のように整備する予定である。

1年次及びから2年次のデザイン基礎や各コースの演習に必要な演習室は、約110㎡程度の演習室を2室以上、合計220㎡程度用意して1部屋あたり最大40名、合計80名が同時に演習できるようにする。同時に芸術学部の共用施設として、木工室、金工室、塗装室、プラスチック加工室等、合計約160㎡の施設を利用できる。またメディア映像学科の写真実習室や、美術工芸学科の木彫実習室などの施設設備もカリキュラム内容に応じて利用可能とする。

3年次及び4年次の各コース実習室については、1コース各80㎡程度以上とし約400㎡程度以上の実習室を準備して、実習に必要なコンピュータ設備等をその中に設置する。

新たに整備する約130㎡程度のコンピュータ演習室については、新たに「イラストレーション」「グラフィック・デザイン」「テキスタイル・デザイン」「プロダクト・デザイン」「空間

プロデュース」に対応した各種ソフトを装備したパソコン約35台を設置し、各演習・実習と対応して使用する。製図演習については、基礎段階では上記のデザイン基礎の演習室を使用するが、CADについてはコンピュータ演習室に各種CADソフトを組み込み1学年が同時に受講できるようにする。

#### 観光学科

基本的に教室、図書館、会議室等の校舎施設は、現有の施設を活用する予定である。研究室は専任教員一人当たり24㎡を基準とする部屋を準備している。

観光学科においては、開学時に設置したLL教室(142.5㎡)をCALL教室に改修し、語学教育ならびにコンピュータ教育に備える予定である。ゼミ室については開設年度に4部屋、3年次にさらに2部屋を設け、教養ゼミ等の授業科目で使用する予定である。また、旅行代理店の接客カウンター、ホテルカウンターの実習室を設け、ホスピタリティ論Ⅰ、宿泊経営演習等の授業科目に対応する予定である。

#### (c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書館は本館のみからなり、面積は、1,446㎡で、閲覧席が232席ある。平成18年度末の蔵書冊数は、和書洋書あわせて74,000冊であり、蔵書の増加数は、平成15年度は4,072冊(内芸術系506冊)、平成16年度は2,470冊(内芸術系550冊)、平成17年度は3,342冊(内芸術系458冊)と毎年定量的に増やしている。

他大学の図書館との協力については、岡山県大学図書館協議会相互協力協定に参加しており、岡山大学附属図書館はじめ、19大学図書館で閲覧、貸し出しができる。また岡山理科大学、千葉科学大学、倉敷芸術科学大学の姉妹校図書館では、図書を無料で取り寄せることができるなど協力体制を整えている。

#### \*デジタルデータベース、電子ジャーナル等の整備計画について

図書館には、インターネット専用端末が、1階と2階にある。これにより、倉敷芸術科学大学図書館のホームページから国立国会図書館をはじめ全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベースを検索できる。

#### \*代行検索サービス

図書館事務室では有料データベースの検索をオンラインシステムにより代行致している。

##### ◆DIALOG (有料)

自然科学・工学・社会科学・人文科学・ビジネス・特許・商標・著作権等

##### ◆STN International (有料)

農業・食品科学・生物科学・医学・化学・エレクトロニクス・通信・工学・建設・エネルギー・環境・地球科学・材料科学・数学・コンピュータ科学・科学技術全般・特許・物理学等

##### ◆New JOIS (有料)

科学技術全般・薬学・生物科学・原子力・化学・食品・都市工学・道路等

##### ◆NACISIS-1R (有料)

自然科学・工学・社会科学・人文科学・目録所在情報等

\*図書館の閲覧室、閲覧席数、レファレンス・ルーム、検索手法等

本学は図書館を第4号館（鉄筋コンクリート2階建て床面積1,446㎡）に置いている。閲覧座席数は232席である。

レファレンスはカウンターで対応をしており、図書館独自のホームページにより本学蔵書検索、内外の図書館や学術機関のリンク集、各種蔵書検索、外部データベース検索、オンラインジャーナルへのリンクなどを掲載し、コンテンツの充実・拡充に努めてきており、学内LANによりいつでも自由に利用できる環境を整備している。

## 美術工芸学科

学術雑誌については、開学当初芸術系51種であったが、その後幾度の見直しを経て、現在芸術学部として64種の学術誌を維持している。また、学部独自の図書室を設け、炎芸術、住宅特集、ジャパンアーキテクト、ぴあ、など図書館（本館）に入らない雑誌を購入し学生に提供している。なお、図書館（本館）において購読中の美術工芸学科向けの洋雑誌18種、ならびに和雑誌11種の雑誌タイトルは以下の通りである。

### <洋雑誌>

- 1 African arts = Arts d' Afrique
- 2 American craft / American Craft Council
- 3 Art book / Association of Art Historians
- 4 Art bulletin
- 5 Art history : journal of the Association of Art Historians
- 6 Art journal / College Art Association of America
- 7 Asian art news
- 8 British journal of aesthetics / British Society of Aesthetics
- 9 CAA news : the newsletter of the College Art Association
- 10 Craft arts international
- 11 Fired arts & crafts
- 12 Glass : Urban Glass Art Quarterly / New York Experimental Glass Workshop
- 13 International journal of applied ceramic technology : ceramic product development and commercialization
- 14 Journal of aesthetics and art criticism / American Society for Aesthetics
- 15 Journal of the American Ceramic Society
- 16 Metropolitan Museum of Art Bulletin / Metropolitan Museum of Art
- 17 Museum studies / the Art Institute of Chicago
- 18 Studies in iconography

<和雑誌>

- 1 BT : 美術手帖 : bijutsu techo : monthly art magazine / 美術出版社
- 2 21st century prints = 21世紀版画
- 3 アート・トップ / 芸術新聞社
- 4 藝術新潮
- 5 芸大・美大をめざす人へ
- 6 月刊美術
- 7 史迹と美術 / 史迹・美術同攷會 [編]
- 8 新建築 / 新建築社 [編]
- 9 陶説 / 日本陶磁協会 [編]
- 10 民芸 / 日本民芸協会 [編]
- 11 大和文華 / 大和文華館

## デザイン学科

新たに設置するデザイン学科においては、図書2,634冊、雑誌24誌がデザイン、染織、広告系図書であり、本学の特色を反映している。図書館備え付けの資料のうち主に和書・和雑誌は学習用資料、洋書・洋雑誌は研究用資料となっている。

これらの図書に加え、さらに図書、及び雑誌を購入する予定である。

デザイン学科における図書2,634冊の詳細と雑誌24誌タイトルは以下の通りである。

### 図書

分野 (大分類/小分類 (内容補記))	対象冊数
建築学	454
電気工学/電灯・照明	8
WEB系/デザイン、WEB言語	73
化学工業/染色	23
化学工業/繊維工学	48
化学工業/染色加工、染色業	21
化学工業/雑工業(被服身廻品)	15
家政学/衣服、裁縫	12
家政学/手芸	28
家政学/理容、美容	4
家政学/住居・家具調度	16
家政学/育児(衣服、玩具等)	1
蚕糸業	3
商業/広告、宣伝	30
商業/マーケティング(商品、商品学等)	121
絵画/漫画、挿絵、童画	107
絵画/グラフィック・デザイン、図案	288
工芸/染織工芸	532
工芸/デザイン、装飾美術	781
工芸/美術家具	26
工芸/人形、玩具	24
諸芸、娯楽/囲碁	10
諸芸、娯楽/将棋	7
諸芸、娯楽/射俵(トランプ、タイスゲーム他)	0
諸芸、娯楽/室内娯楽(すごろく、TVゲーム他)	2
合計	2634

### 雑誌24誌タイトル

- 1 AATCC review : the magazine of the textile dyeing, printing, and finishing industry
- 2 Art and Asia Pacific
- 3 B&W : black & white magazine for collectors of fine photography
- 4 Coloration technology : the journal of the Society of Dyers and Colourists
- 5 Dazed & confused

- 6 Elle décoration
- 7 Fiberarts, the magazine of textiles
- 8 I-D
- 9 ID : magazine of international design
- 10 Nylon
- 11 Review of progress in coloration and related topics
- 12 Wallpaper
- 13 +81 : creators on the line
- 14 Axis
- 15 BT美術手帖
- 16 CG world & digital video
- 17 DTP world
- 18 MdN
- 19 Typographics"TEE"
- 20 Web creators
- 21 Web designing
- 22 アイデア
- 23 イラストレーション
- 24 デザインの現場

#### 観光学科

観光関連の雑誌は和雑誌7誌、洋雑誌1誌、図書は和書が8, 623冊、洋書2, 449冊である。

#### 学術雑誌のリスト

誌名	出版社
English Express	朝日出版社
National Geographic	日経ナショナルジオグラフィック社
アジア経済	アジア経済研究所
AMDA Journal	AMDA
英語青年	研究社
国際政治	日本国際政治学会
世界	岩波書店
Spiegel	R. Augstein

これに加えて、観光学科としては、完成年次までに和書1, 000冊、洋書120冊、和雑誌30誌、外国雑誌10誌、視聴覚教材100種類を購入する予定である。

#### ク 入学者選抜の概要

##### 美術工芸学科

学生の受け入れにあたっては、美術工芸学科の重点教育目標を定め、その教育目標達成に向けての基礎学力や意欲などの条件を満たした学生の受け入れを目指す。美術工芸学科の教育目標は、「芸術理論と実制作の統合的な学習を基盤として、多様な芸術と文化についての理解を深め



るとともに、新しい芸術文化の創造実務者の育成を図る。」ことであり、表現者としてだけでなく、実務者としても芸術表現活動のスペシャリストの育成を目指す。

この教育目標を踏まえ、美術工芸学科が求める人物像は「美術や工芸などの創作活動や各種イベントの企画立案などについて関心があり、また芸術や歴史、文化について幅広い興味と関心があり、積極的で行動力と責任感のある人物」であり、以下の入学試験により選抜する。

#### 1) 推薦入試

高校生活での実績に基づいた推薦により、学部・学科が指定した出願資格や能力を持つ生徒を対象に、実技試験または小論文と調査書の総合評価により選抜する。なお、この中には指定校や専門高校・総合学科を対象とした特別推薦入試も含まれる。

#### 2) AO入試

美術工芸学科に強い入学意識を持つ受験者を対象に、書類と自作の持参作品や適格者確認調査、面接により目的意識や意欲、能力を持った人材を選抜する。

#### 3) 一般入試

国語、外国語、数学のうちいずれか1科目選択による学力試験と、鉛筆デッサンまたは小論文による実技試験の総合評価で合否を判定する。

#### 4) センター利用試験

多数の科目を並行して学習してきた幅広い知識を持つ受験者を対象に選抜する。6教科25科目より選択した2教科2科目の総合点で選抜する。

#### 5) 社会人・留学生を対象とした特別入試

高等学校を卒業またはそれと同等以上の学力があると認められる者を対象に、面接および所定の出願書類、提出作品または小論文等の総合評価により選抜する。特に創作と学業への強い関心と意欲を評価する。社会人とは、企業等の在職者、離職者、主婦等とする。

留学生を対象にした選抜方法も予定している。高等学校卒業後の年月の経過等や海外における教育事情の違い等を考慮し、選抜方法は面接及び書類審査、実技試験等により、能力・意欲・適性について評価を行う。

### デザイン学科

学生の受け入れにあたっては、教育目標を定め、その目標達成に必要な求める人物像を満たした学生の受け入れを目指している。デザイン学科の教育目標は次に示す通りである。

デザイン学科の教育目標：今日の情報化社会に対応したこれからのデザインが、「人、モノ、空間、システム、情報など」との関わりを通し、包括的な経験価値の創出という役割が求められていく中、デザインの諸分野を集約した総合的な研究・教育が必要となっている。そこで、工芸・デザイン学科を母体とし、ものづくりから空間や情報分野にまで従来の細分化されたデザイン領域にとらわれない平面、立体、空間、情報といった幅広い領域を捉え直し、総合的なデザインの研究・教育を効果的に行なうことを目的としたデザイン学科を新たに設置する。これにより、時代の求める価値を総合的なデザインアプローチによって創出し、さらにそれを地域社会につなげ、より具体的な貢献のできる研究・教育を行なう体制とする。

これらの教育目標を踏まえ、デザイン学科が求める人物像は「デザインについて関心があり、平面、立体、空間、情報といった幅広いデザイン領域に興味と関心を持ち、積極的で行動力と責任感のある人物」であり、以下の入学試験により選抜する。入学試験は主に推薦入試、一般入試、

インターンシップ（国内実習を含む）を履修する者は夏期休暇などを利用して、観光関連企業の現場で就業体験を行う。またこれに限らず、独自に国内旅行を企画し、実際に旅行を体験することも可能である。実習先として予定している企業は、（株）K2、タビックスジャパン、倉敷アイビースクエア等や、県内の旅行関連企業である。

観光特別実習（海外実習を含む）の履修者は、講義や実習などで修得した知識や技術を実践に移すことを目的とし、夏期休暇などを利用して、主に海外旅行を中心に、実際に旅行を企画・実施する。

## チ 自己点検・評価

本学は1995年度の開学と同時に自己評価委員会を発足させ、2000年度から本格的に自己評価・自己点検を開始した。その報告書として『自己点検・評価報告書』を2001年度に発行、以降『FD活動報告書』を毎年発行している。また、2000年度・2001年度に全学生を対象とした学生アンケートを実施し、それを自己点検・自己評価に加えた。

また、これと平行して2000年度に「大学基準協会」への加盟判定審査を申請し、2001年度に正会員として認定された。2002年度からは全科目を対象に授業アンケートを開始し、2005年度からはアンケート項目の見直しを経て、現在は全集計データを学内教職員に開示するに至っている。

認証評価については、2004年に大幅な学部学科の改組を行ったことから、完成年次の2008年に自己点検評価を行い、速やかに大学基準協会等で評価を受ける準備を行っている。

## ツ 情報の提供

本学が独自に自己点検・評価した「自己点検・評価報告書」（1995年4月～2000年5月）は、学内はもとより、岡山県内外の近隣大学や公共機関へ送付され、製本形式で情報開示されている。また「大学基準協会」加盟判定（2000年度）のため同様の点検・評価報告書を提出し、認定（2001年度）を受けている。

## テ 教員の資質の維持向上の方策

教員の資質の向上にあたっては、学生による授業評価を行い授業改善に生かしている。授業アンケートの個々の科目の集計結果を2005年度後期より学内教職員に開示し、2006年度前期より教職員、学生に開示を実施した。教員には所属学科の平均と個々の担当科目の点をレーダーチャート図で対比し、分かりやすく集計しており、自己啓発を促すよう工夫している。

また2005年度より試験的に一部の科目で授業開示を実施しており、授業改善に役立っている。全学的に2001年度に教育研究委員会（FD委員会）を設置し、2005年度にFD活動の担当事務部署である教育研究支援センターを開設し、FD（SD）講演会の実施、FDフォーラムへの教員の派遣、FD報告書の作成、教員の教育・研究業績調査票を作成するなど、FD活動を推進している。